

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1 はじめに

長洲町教育委員会では、長洲町の児童生徒の学力や学習状況がどのような状態にあるのかを把握し、指導の工夫改善等に生かすために「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の調査結果を、全国や県及びこれまでの調査結果と比較することにより、教育施策の成果と課題の検証・改善や学校における教育指導の改善等に役立てていきます。また、町民の皆様と共有することで、長洲町の児童生徒の「確かな学力」の育成に共に取り組んでいきたいと思ひます。

なお、今回の調査で得られた結果は、児童生徒の学力の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、各教科での指導法等の工夫改善を図り、教育行政の施策に役立てていきます。

2 調査の概要

○実施日 令和4年4月19日（火）

○調査対象 小学校6年生、中学校3年生

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

・知識・活用を一体的に問う問題

（2）質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

・学習意欲、学習方法、学習習慣、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の概況

（1）教科に関する調査

①小学校6年生（国語・算数・理科）

	国語	算数	理科
全国平均正答率(公立)	65.6	63.2	63.3
町平均正答率	67.0	67.0	66.0

②中学校3年生（国語・数学・理科）

	国語	数学	理科
全国平均正答率(公立)	69.0	51.4	49.3
町平均正答率	65.0	47.0	46.0

（2）質問紙調査の結果より

○小学校（児童質問紙調査より）

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

◎自分には、よいところがあると思ひますか。

◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思ひますか。

◎将来の夢や目標を持っていますか。

◎学校に行くのは楽しいと思いますか。

◎家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

【下回った項目】

▲新聞を読んでいますか。

▲自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。

▲地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事の先生は除く)

○中学校 (生徒質問紙調査より)

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

◎学校に行くのは楽しいと思いますか。

◎友達と協力するのは楽しいと思いますか。

◎自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。

【下回った項目】

▲自分には、よいところがあると思いますか。

▲将来の夢や目標を持っていますか。

▲家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

▲新聞を読んでいますか。

▲読書は好きですか。

4 成果と課題

○小学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要録の内容「知識及び技能」について全国平均正答率を上回った。特に、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、全国平均を大きく上回っており、授業における日常の取り組みの成果であると考えられる。

一方、学習指導要録の内容「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」すべてで全国平均正答率を下回った。特に、「読むこと」では、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える設問において、正答率が全国平均を大きく下回った。今後の日々の授業において、継続的に力を入れていく必要がある部分である。

『算数』の結果では、学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」すべてで、正答率が全国平均を上回った。特に、「図形」に関する問題の平均正答率は、全国平均を大きく上回る高い値となった。また、「数と計算」についても理解が見られ、日々

授業において、基礎的・基本的な内容の定着が図られている成果であると考え。

『理科』の結果では、学習指導要領の区分・領域「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」すべてで、正答率が全国平均を上回った。特に、「粒子を柱とする領域」に関する問題の平均正答率は、全国平均を大きく上回る高い値となり、日々の授業における学習内容の定着が図られている成果であると考え。

○中学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要領の内容「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」のほとんど内容で全国平均正答率を下回った。特に、「話すこと・聞くこと」では、論理の展開などに注意して聞くこと、表現の工夫に関する問題において、全国平均正答率を大きく下回る結果となった。また、「記述式」問題での誤答や無答も多いことから、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことや考えを文章として書き表す力を身につけていく必要がある。

『数学』の結果では、学習指導要領の内容「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域で全国平均正答率を下回った。特に、「関数」「データの活用」について、全国平均正答率を大きく下回る結果となった。問題形式では、「記述式」問題での誤答や無答が多く見られることから、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明するなどの力を身に付けていく必要がある。

『理科』の結果では、学習指導要領の領域「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」すべてで、正答率が全国平均を下回った。特に、「エネルギーを柱とする領域」に関する問題の正答率が全国平均を大きく下回る結果であった。

今回、選択式の問題が多く出題されていたことから、答えを導き出していくうえでも、まずは基礎的・基本的な内容の習得を日々の授業で積み重ねていくことが必要である。一方、気圧・気温・湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類と関連付けて、適切な天気図を選択する問題では、正答率が全国平均を大きく上回る結果が見られる部分もあった。

5 今後の対策

今回の調査結果から、教科に関する調査では、小学校において「国語」「算数」「理科」の全教科で、全国平均正答率を上回った。一方、中学校においては、「国語」「数学」「理科」の全教科で、全国平均正答率を下回る結果となった。町教育委員会では、今回の「教科に関する調査」及び「児童・生徒質問紙調査」の結果を真摯に受け止め、各学校についても結果を詳細に分析し、町学力向上対策委員会等を開催し、成果と課題を明確にしながら、「誰一人取り残さない学びの保障」や「教員一人一人の授業力向上」に向けた具体的な取組を行っていく考えである。

また、学習指導はもちろんのこと、今後も引き続き子供たち一人一人に寄り添い、子供たちの瞳が輝き、笑顔で前向きに学校生活を送ることができるよう教育委員会としても各学校とさらに連携を深めていきたい。